

連載

ホームページで情報発信

M
H
O
M
E
P
A
G
E



TABLE タグ使用上の注意

TABLE タグはHTML 3.0の機能です。最近では少なくなったとはいえ、まだこのタグを認識できないブラウザがあることは覚えておいてください(Netscape では1.x から利用できます)。TABLE タグを認識しないブラウザでTABLE タグを使ったページを表示すると、情報が欠けることはありませんが、想定した見え方とはかなり違った、乱れたレイアウトになります。できれば同じページをTABLE タグを使ったものと、使わないもので2種類作っておいて見る人に選択させるのがいちばん親切です。

TABLE タグの基本

TABLE タグで作る1つの表は、<TABLE>で始まり、</TABLE>で終わります。

表の中の内容は、行、そしてその中の1つ1つの項目(表計算ソフトで言う「セル」)を指定することで表します。

個々の行は<TR> ~ </TR>で、セルは<TD> ~ </TD>で指定します。たとえば横2×縦3の単純な表は、次のように表します。

```
<TABLE>
<TR><TD>セル1</TD><TD>セル2</TD></TR>
<TR><TD>セル3</TD><TD>セル4</TD></TR>
<TR><TD>セル5</TD><TD>セル6</TD></TR>
</TABLE>
```

川添 歩(かわぞえあゆむ)
アクセス株式会社 <http://www.axes.co.jp/>

第7回 TABLEタグで表を作る

TABLE タグは、その名のとおり表を作るためのタグですが、最近では美しいレイアウトを実現するために使うことも多いようです。いくつかの列を作って段組みをしているように見せられるほか、Netscape 2.xになるまでサポートされていなかった文字列の右寄せが表の中ではできるという点はその理由でしょう。

これをブラウザで表示すると図1のようになります。これはもちろん

```
<TABLE><TR><TD>セル1</TD><TD>セル2</TD></TR>.....<TD>セル6</TD></TR></TABLE>
```

のように続けて書いても表示結果は同じなかまわれないのですが、行やセルの構成が分かりにくくなってしまいますので、できるだけ分割して、また段下げをして書いたほうが、修正するときなどに見やすくなります。

私は、より複雑な表では、

```
<TABLE>
  <TR>
    <TD>セル1</TD>
    <TD>セル2</TD>
  </TR>
  .....
</TABLE>
```

のようにセルごとに改行して書くこともあります。

表の枠を指定する

図1では枠の線がないためにあまり表らしくありません。枠の線を表示させるには、BORDER オプションを使って、<TABLE BORDER> ~ </TABLE> のようにします(図2)。枠の線の太さをここで指定することもできます。

```
<TABLE>...枠なし
<TABLE BORDER>または
<TABLE BORDER=1>...1ピクセルの枠つき
<TABLE BORDER=3>...3ピクセルの枠つき
```

枠の形は、ブラウザによって多少異なります。Netscape の場合には、BORDER のサイズを変えると、立体的に表現されている枠の浮き彫りの高さが変わります。枠部分の

川の名称	川の長さ
信濃川	367km
利根川	322km
石狩川	268km

```
<TABLE>
  <TR><TD>川の名称</TD><TD>川の長さ</TD></TR>
  <TR><TD>信濃川</TD><TD>367km</TD></TR>
  <TR><TD>利根川</TD><TD>322km</TD></TR>
  <TR><TD>石狩川</TD><TD>268km</TD></TR>
</TABLE>
```

図1：作成した表をブラウザで表示した例

川の名称	川の長さ
信濃川	367km
利根川	322km
石狩川	268km

```
<TABLE BORDER>
  <TR><TD>川の名称</TD><TD>川の長さ</TD></TR>
  <TR><TD>信濃川</TD><TD>367km</TD></TR>
  <TR><TD>利根川</TD><TD>322km</TD></TR>
  <TR><TD>石狩川</TD><TD>268km</TD></TR>
</TABLE>
```

図2：TABLE タグにBORDER オプションを追加して表示したところ (Netscape 2.0 を使用)

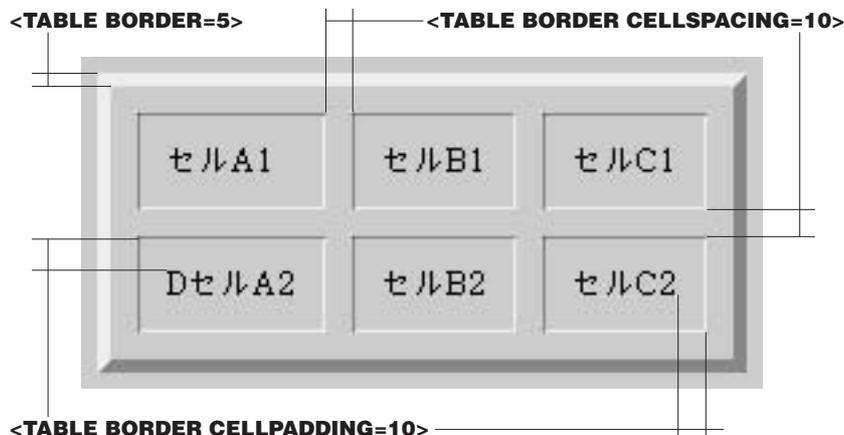


図3：TABLE タグの各種オプションと表示の例
BORDER、CELLSPACING、CELLPADDING で表の枠の属性を指定できる

幅を太くする、すなわちセル間を広げるには、CELLSPACING というオプションを使って

```
<TABLE BORDER CELLSPACING=10>
```

のように指定します。

さらに、枠と中の文字列との間をあけるには、CELLPADDING というオプションで、

```
<TABLE BORDER CELLPADDING=10>
```

のように指定します(図3)。

表とセルのサイズ

表全体や個々のセルの幅は、特に指定をしなければ、中に入る文字列の長さによって自動調整して作られますが、これを直接指定することもできます。

指定するには、<TABLE> または <TD> のオプションとして、WIDTH を使います。WIDTH の単位はピクセルですが、数字のあとに「%」をつけて、ブラウザのウィンドウ幅を1としたときのパーセンテージで表すこともできます。

<TABLE WIDTH=200>...幅200ピクセルの表
 <TABLE WIDTH=60%>...ウインドウの幅の60%の表
 <TD WIDTH=60>...幅60ピクセルのセル

なお、日本語に対応していないブラウザで日本語の表を表示する場合、文字列の長さによるセル幅の自動調整や、WIDTHの指定がうまくいかない場合があります。
 そのようなブラウザで思ったように表示させるには、英数文字のみか、またはグラフィックをセルに入れた行を作って調整するしかないでしょう。

```
<TABLE BORDER>
  <TR>
    <TD></TD>
    <TH>・・・左・・・</TH>
    <TH>・・・中央・・・</TH>
    <TH>・・・右・・・</TH>
  </TR>
  <TR VALIGN=TOP>
    <TH>上<BR>・・・</TH>
    <TD>上左</TD>
    <TD ALIGN=CENTER>上中央</TD>
    <TD ALIGN=RIGHT>上右</TD>
  </TR>
  <TR VALIGN=CENTER>
    <TH>中央<BR>・・・</TH>
    <TD>中央左</TD>
    <TD ALIGN=CENTER>まん真ん中</TD>
    <TD ALIGN=RIGHT>中央右</TD>
  </TR>
  <TR VALIGN=BOTTOM>
    <TH>下<BR>・・・</TH>
    <TD>下左</TD>
    <TD ALIGN=CENTER>下中央</TD>
    <TD ALIGN=RIGHT>下右</TD>
  </TR>
</TABLE>
```

	・・・左・・・	・・・中央・・・	・・・右・・・
上	上左	上中央	上右
中央	中央左	まん真ん中	中央右
下	下左	下中央	下右

図4：セル内の文字の位置揃え
ALIGNオプションで文字の位置を左右、中央、上下に指定できる。

セル内の文字列の位置

セル内での文字列は、特に指定しなければ左寄せで天地中央に配置されます。それを変更するには、ALIGNオプションで水平位置を、VALIGNで垂直位置を指定します。これらは、<TABLE>、<TR>、<TD>のいずれのタグにもオプションとして使用することができます。<TABLE>のオプションなら表全体に、<TR>なら行全体にその指定を適用することになります。図4のHTMLとその表示結果を見ていただければ、これらのオプションの効果が分かります。

```
<TABLE BORDER>
  <TR>
    <TD></TD>
    <TD ROWSPAN=2></TD>
    <TD COLSPAN=2>性別</TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD></TD>
    <TD>男</TD>
    <TD>女</TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD ROWSPAN=2>年齢</TD>
    <TD>20才未満</TD>
    <TD>太郎</TD>
    <TD>花子</TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD>20才以上</TD>
    <TD>次郎</TD>
    <TD>京子</TD>
  </TR>
</TABLE>
```

		性別	
		男	女
年齢	20才未満	太郎	花子
	20才以上	次郎	京子

図5：複数の行と列を1つのセルにする
行の結合はROWSPANを、列の結合はCOLSPANをTABLEタグのオプションとして指定する。

複数行、列にまたがるセル

図5のように、複数の行や列にまたがったセルを作りたい場合があります。このようなセルは、またがる分の行や列の数を数えて、それをROWSPANあるいはCOLSPANで指定します。
 注意しなければならないのは、ROWSPANやCOLSPANで作られる大きなセルによって、いわば覆われることになる部分のセルは、<TD>で作成してはいけないという点です。
 たとえば図6のような表の左部分を1つの枠にして図7のようにしたい場合、図6のHTML

```
<TABLE BORDER>
  <TR>
    <TD>ブラウザ</TD>
    <TD>Netscape</TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD></TD>
    <TD>Mosaic</TD>
  </TR>
</TABLE>
```



図6(上)・7(下)：セルを結合するときの指定
ROWSPANやCOLSPANで結合される空欄のセルは削除しておかなければならない。

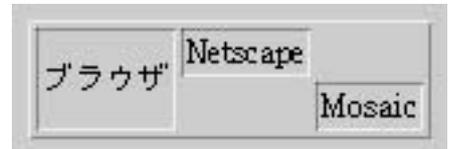


図8：余分なセルを削除しなかった場合
表のレイアウトが崩れてしまうので注意。(Netscape Navigator 2.0の例)

の3行目にROWSPAN オプション (<TD ROWSPAN=2>) を加えるだけでなく、7行目を削除する必要があります。もしこれを削除しないと、図8のように、ROWSPANで作られたセルに押されるようにしてセルがずれ、余計な列を作ってしまうことになります。

たいていの場合、まずROWSPANやCOLSPANを使わずに表を作ってみてから、セルをまとめていく作業をすることになるでしょう。前述のように行を分けたり段下げしたりしておけば、余計なセルを削除する作業でも間違いを少なくすることができます。

COLUMN

インターネット上に安らぐ魂

以前から作ることを考えながら、なかなか作れないページがある。

墓地のページだ。

墓地というものは、生から離れた人を埋葬し、安らかに眠ってもらうための場所だ。だが、実際には生きている者の心を安らかにすることこそが、墓地の役割である。

親しい者を失ったことを現実のものとして目の前で確認し、その者の生きていた時間を思い起こす。そして、その者とともに生きていた自らの時間を思うための場所なのだ。

分からないことだらけの人生の中で、唯一、はっきりと分かっている未来の事実。どのような立場の人にも平等に訪れる。すでに期限を迎えてしまった人たちの記憶が、私たちの時間が有限であることを教えてくれる。その記憶が、私たちの生を支える。

石に文字を刻んで墓とするのは、短い人の生を少しでも長く記憶として残し、その生の意味を考え、糧とするためだ。それが今ここにある生を真摯に見つめることになる。

墓石が人生を記憶する媒体だとすれば、ハードディスクもまた、それを記憶する媒体になりえるだろう。誰でも訪れることのできるハードディスク - インターネットは、墓地としての役目を十分発揮してくれるだろう。

自らの命が失われてからも、他の人の記憶の中で生き続けることを墓が約束してくれる。

<TH>と<CAPTION>

<TD>の代わりに<TH>を使うと、そのセルは見出しとして認識され、太字になって左右中央に配置されます。それ以外は、使用できるオプションなども<TD>と同じです。

<CAPTION>は表のタイトルやキャプションを指定するタグです。このタグのオプションにはALIGNとしてTOP/BOTTOMがあり、たとえば

<CAPTION ALIGN=TOP>表1 </CAPTION>

と書けば、表の上に「表1」と表示されます。

グラフィックを中に入れる

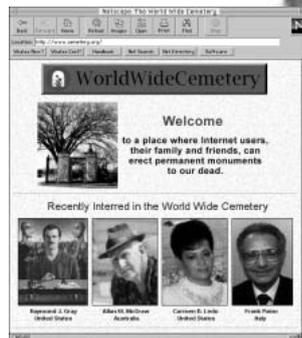
セルの中には文字列だけでなく、グラフィックも入れられます。文字列の代わりにタグで画像を指定するだけです。

タグではできるだけサイズを指定するようにと繰り返し述べてきましたが、特に表の中の画像には必ず指定するようにしてください。ブラウザーが複数の画像の入った表を表示する場合、それらすべての画像のサイズを認識してから表を作成するため、サイズ指定がないと表示するまで余計に時間がかかってしまうからです。

*:タグのオプションWIDTHとHEIGHTを使用する

そのこともまた、私たちにいくらかの安心感を与える。完全に失われることへの強い恐れが私たちの心の中にある。

世界中の人が見ることのできるデジタルネットワークという石の上に、かつてこの時代、この場所に確かに存在したのだという証拠を



刻みつけることができれば、いなくなってしまう人々たちにとっても、まだ残っている私たちにとっても大きな安らぎを与えてくれるものに違いない。

誰の心の中にも、おりにふれて浮かんでくる面影があるだろう。私たちが持っているその人々の記憶をデジタルに定着させる作業は、気軽にするものではない。じっくり、時間を

かけて行うべきことだと思う。

いつもそばに置いておきたい記憶もあれば、春と秋にだけ訪れたい記憶もある。自分のホームページの中につけておいて、1日一度は手を合わせるのもよい。海外の墓地のサイトに登録して、ときどきそこを訪れるのもよい。とても大切な人のためならば、特別にどこかふさわしい墓所を借りてあげるのもよいかもしれない。

たくさんの人とともに思い出したい記憶もあれば、ひっそりと思い出したい記憶もある。たくさんの人に愛された記憶は、たくさんの人のホームページの片隅が、互いにリンクして1つの墓を形成するかもしれない。訪れてくれた人に記帳してもらったり、思い出話を語ってもらったりする場所があってもいい。

逆に、世界に開かれている場所だからといって、すべてを公開する必要はない。自分だけで対したい記憶もある。どこからもリンクをはることのないページとして作り、1人で会いなくなったときにだけ、URLに含まれるその人の名をタイプして、ひっそりと訪れてもいいのだ。

どのような方法でもよい。自分が納得のいく訪れ方ができ、そのときの気持ちにふさわしい内容が収まっている。そういう場所を作ることには意味のあることだと思う。そしてその作業をするという行為自体にもまた、大切なものが含まれているのではないかと思う。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp